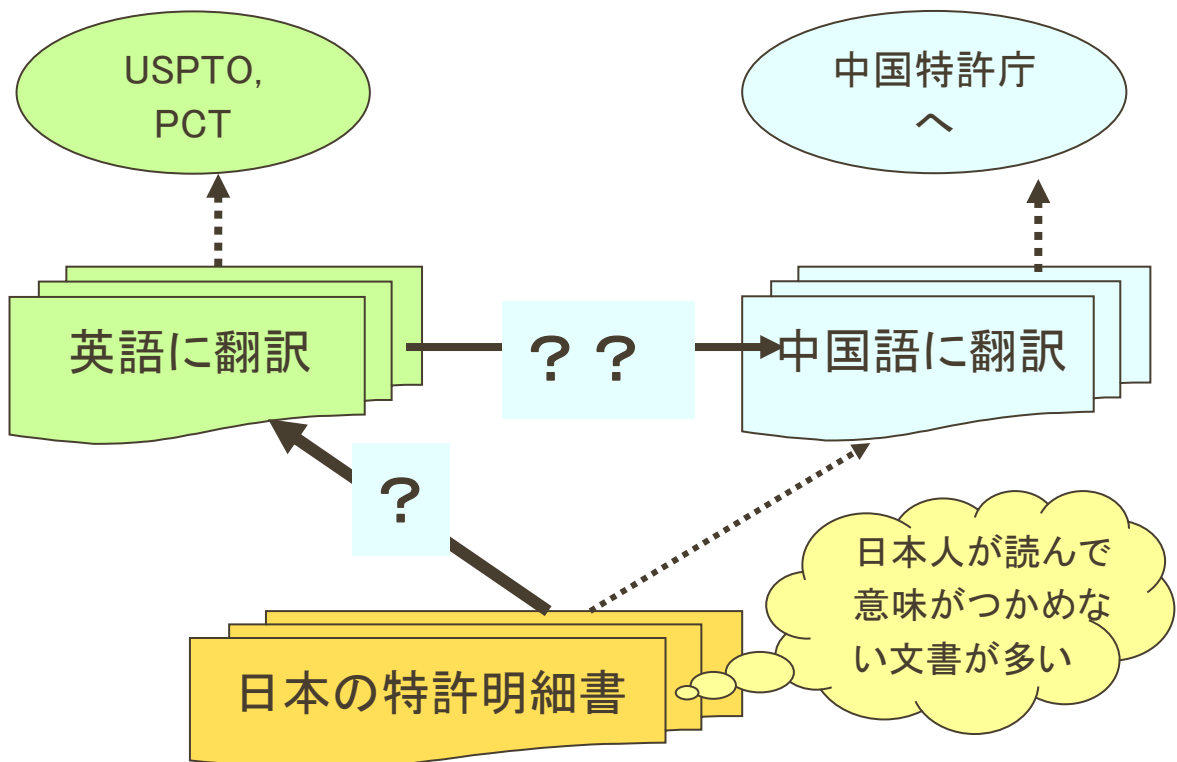
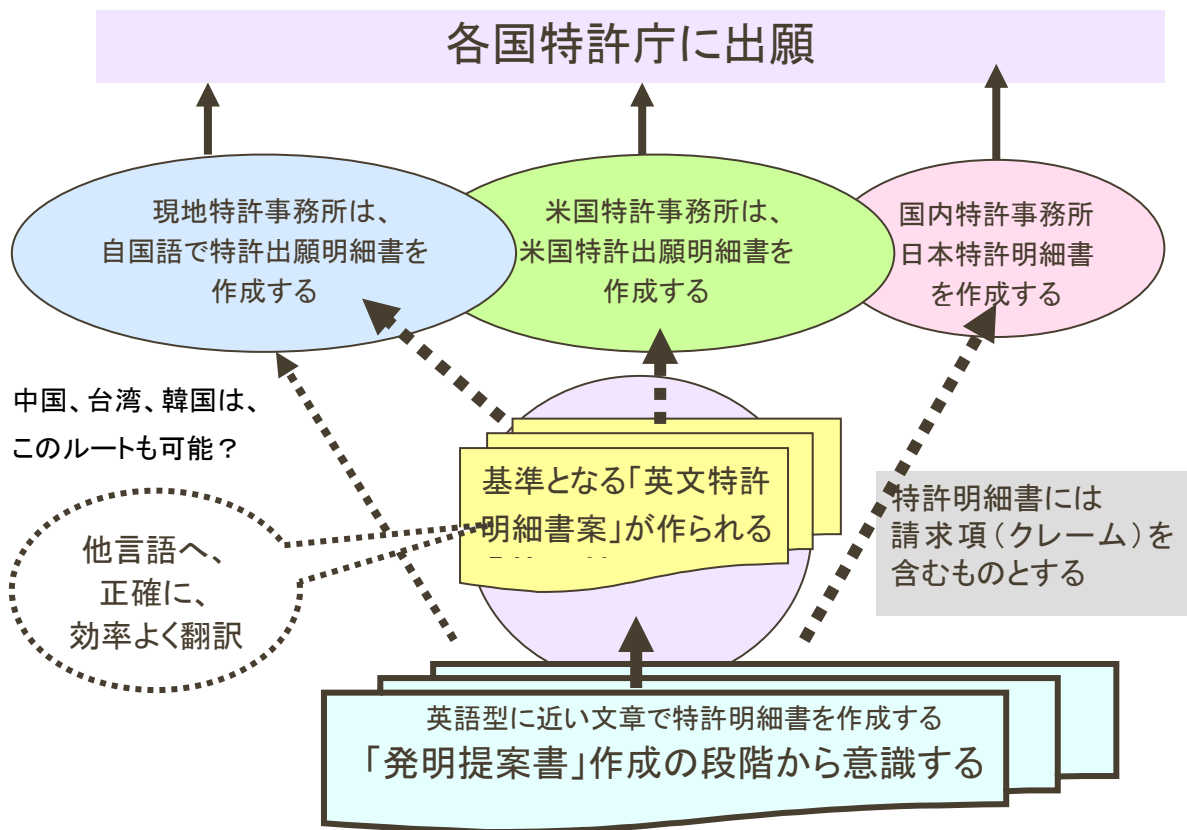


曖昧な日本語が引き起こす、 互換性がない各国間での特許明細書

国際出願での PCT (Patent Cooperation Treaty) の約束の下では、国内出願の優先権は認めるが、それを英語で提出するときは、国内で出願した内容と同じ事項を記せ、となっています。至極当然のことです。優先権を認めた出願と英語で記述されたそれが異なる記述をされていれば、そこで主張されている発明が別物になってしまう恐れがでます。現状は、世界各国の特許明細書と互換性が取れていない可能性があります。



「このように改善すれば世界各国と共通の特許明細書が作れます」



【資料】：悩ましい特許用語

ここで挙げた言葉は、そのほとんどが「動詞」であり「広辞苑」にも記載されていない言葉が多いです。日本語では二文字漢語(漢字)に「する」を付ければ、なるほど「動詞」に化けることはできますが、これでは全くやりたい放題で、せっかくの特許も「推測、推察」するしかありません。特殊な専門用語(ほとんど名詞)の使用は仕方がないにしても、文章の核になる動詞がこれでは困ります。

1. XXとYYは、ZZにて、「当接されている」。
2. XXとYYは、ZZZにて、「連接されている」。
- * 仮名漢字変換もしてくれないから、入力が大変である。
3. XXをYY方向に、「並設して有している」。
4. XXは、YYによって、「回転自在に」支持されている。
5. XXに、YY電圧を「印加する」。
6. XXの表面を、「選択的に露光する」。
7. XXベルトは、YYに、「張架されている」。
8. XXを、YYに「圧接する」。
9. XXが、YYに、「遥動自在に」支持されている。
10. バネによって、XXが、YYに「付勢されている」。
11. ユーザーは、YYを「把持する」。
12. XXとYYが「系合する」。
13. XXはYYの方向に「延出している」。
14. XXの周面を「摺擦（しゅうさつ）する」。
15. 穴部を「挿通（そうつう？）して」XXにねじ込まれる。
16. XX穴とYY穴が「嵌合（かんごう）する」。

「IPMアカデミー」からのお知らせ：

知財学習専門サイト「IPMアカデミー」は日本アイアール社 知的財産活用研究所で、これまで纏めてきた「知財問題レポート」や「知財学習教材」などの資料を公開しています。この資料は、【英文特許仕様明細書（仕様書）作成「改善」マニュアル】【米国特許弁護士の米国特許講座（Basic US Patent Writing）1-8時間「英⇄日の対訳付」等の資料から作成しました。